

第3回 NPO 法人への寄附促進等の 仕組みづくりに関する検討委員会要旨

日時:平成 24 年 11 月 19 日(月)18 時 30 分開会

場所:札幌エルプラザ公共 4 施設 会議室 C

出席者(敬称略)

・委員

水野克也(税理士法人札幌中央会計代表社員 公認会計士・税理士)

◎河野和枝(北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科准教授)

高田敏春(札幌商工会議所 常務理事・事務局長)

北村美恵子(NPO法人北海道NPOサポートセンター理事)

佐々木香澄(認定NPO法人「飛んでけ!車いす」の会理事・事務局長)

・オブザーバー

福田規雄(北海道環境生活部くらし安全局道民生活課協働推進G主幹)

市村義範(札幌市財政局税制部市民税課長)

・事務局

成澤元宏(札幌市市民まちづくり局市民自治推進室市民活動促進担当課長)

柴田耕司(同 係長)

廣瀬晋三(同 担当)

高橋功(株式会社北海道二十一世総合研究所取締役調査研究部部長)

河原岳郎(株式会社北海道二十一世総合研究所調査研究部主任研究員)

岩谷祐子(株式会社北海道二十一世総合研究所調査研究部研究員)

※◎が委員長

○議事

(1) 第3回検討委員会の質問について(報告)

(2) 条例個別指定【公益要件】の考え方

<主な意見・質問>

- ・ (高田委員)

数値以外の基準だけだと全団体が対象になり、選ぶ人や基準の根拠が見えてこない。最低限度の数値基準は必要だと思う。ただ、活動領域によって、数値はいろいろな考え方があると思うため、どの活動領域でも、この程度であれば最低対象になるという基準を議論し、その上で数値以外の基準を議論すべき。そういう意味で数値基準と数値以外の基準の組合せがいいと思う。

- ・ (水野委員)

数値基準と数値以外の基準の組合せがいいと思う。

- ・ (佐々木委員)

数値基準と数値以外の基準の組合せがいいと思う。条例個別指定を設けることの意義は、相対値基準でも絶対値基準でも拾えなかった団体を、もう少し拾っていくことだと考えている。数値基準と数値以外の基準の組合せがいいと思うが、どちらかというとな数値以外の基準を重視すべきだと思う。

- ・ (北村委員)

数値以外の基準を重視した数値基準と数値以外の基準の組合せがいいと思う。

(3) 公益要件(条例個別指定制度)

<主な意見・質問>

- ・ (佐々木委員)

札幌市が指定するので、札幌市の抱える課題解決している団体や、その地域の中で活動をしっかりしている団体というのが必須。また、同じような活動をしているところが多数あるのではなく、独自性を持っていることや将来への継続性があるということが重要になってくると思う。札幌市にはこの団体が必要ということが基準としてあると良い。

- ・ (水野委員)

入れたほうが良い数値基準は、年度末の会員数、事業規模が総支出額の1/2、不特定多数向け事業の実施。ただし、不特定多数向けの事業の実施は、数値以外のもので判定したほうが良いと思う。数値以外の基準では、市内での活動実績、活動拠点が主として札幌、市内に事務所があるは入れたほうがよい。また、特定非営利活動が社会的な課題の解決に対し成果を挙げているというのは、成果を挙げているかどうかは別として、社会的な課題の解決に向けて努力している事業である、その方向に向かって札幌市と同じ軸で走っているということは必要。受益の機会が一般に開かれているというのは当然必要。北海道の指定を受けたもののうち市長が適当と認めるというのは、逆に排除するのは難しいと思う。

- ・ (高田委員)

数値は、公益たる組織の活動が見える、同時にその継続性が判断できるということが必要。人・金・モノでいうと、人の部分では、寄付者の数、会員数、ボランティア数など人に関する部分の項目は1つ必要。お金の部分では、寄附金、事業規模など人に関する部分で1つの基準は必要。物の部分では、参加者数、活動のイベント数などが考えられる。いずれにしても人の部分・お金の部分については何らかの数字を要したほうが良い。数値以外は、市内で活動実績・市内に事務所は最低限度必要。
- ・ (北村委員)

会員については、今まで会員として会費を払って下さった方に対して、金額を少なめにして賛助会員若しくは寄附にするなどの動きがあるため、会員数が多ければいいのかと思う。
- ・ (水野委員)

第三者評価は、評価する評価主体のレベルと評価するときの基準が一定でなければあまり意味が無い。誰でも良いから評価してくれればいいというのは、要件として入れなくてもいいと思う。いずれにしてもどこかで、市内第三者、札幌市で考えるところで審査するのであれば二重・三重にしないで良い。推薦、第三者評価とかにコストかけるのではなくて、純粋な社会貢献活動にエネルギーを注いでいただきたい。ホームページに関しては、重視しなくてもいいと思う。純粋に事業自体で貢献していただいたものを評価してあげたい。
- ・ (佐々木委員)

絶対値基準が作られたことで自主事業をしても認定NPOに申請ができるようになったため、敢えて自主事業をやっている団体を救い上げなくても良い。ホームページは少ない頻度でも活動している様子が見えるような更新・配信があると良い。
- ・ (水野委員)

ホームページの更新は寄附を集める為の努力として、当然必要。ただし、1文字変えても更新になるため、その場合要件としてまで必要なのかと思う。
- ・ (佐々木委員)

条例個別指定をされているということは、今後、寄附を集めていくということだと思うので指定を受けた後に寄附を受けるような働きかけが出来る団体だと判断が出来る基準があると良い。
- ・ (北村委員)

寄附を集める姿勢に関しては口ではどうでも言える、ホームページでもどうでも美しく載せられる。それが将来に絶対繋がるかということそんなことはない。
- ・ (高田委員)

数値部分は必要条件、数値以外は十分条件。数値以外の十分条件はあまり絞り込まないで活動領域が社会的な課題を解決するかどうかなど、最低限度のチェック項目が良い。
- ・ (水野委員)

数値基準は、基準を多くせずにシンプルにした方が良い。

- ・ (北村委員)

数値基準以外にある受益の機会が一般に開かれているを無くして、不特定多数向けの事業の実施の部分で、主催事業への一般市民の参加が100人以上などとするのが、数値として一番取組みやすい。参加者名簿を出さなければいけないのであれば、セミナーやイベント、一般市民を対象としたセミナーやイベントを何回以上のほうが楽だと思う。

- ・ (事務局 柴田)

実際に数値化するにあたっては、困難を極める。例えば、PST要件だと寄附者が実際にいるため人数を数えればいいだけだが、数値基準は厳格にやって根拠を求めていくため、これを設定したことによって、難しい基準になるということも、念頭に置いていただきたい。逆に緩くしすぎると、ただその事業に参加しただけの実績を持って、認定、指定してしまうという危険性を孕んでいる。

- ・ (佐々木委員)

事業規模が小さいところは人がたくさん動いて活動する仕組みになっているため、ボランティア数が入っても良いと思う。会員数は、正会員であれば今のNPOの仕組み上、難しいと思う。ボランティアについては時間よりも人数で管理した方が楽。お金の部分で言えば、事業費、事業規模など、最低限、事業が動いていると分かるような数値を設定して、そこで線を引くのがあり得ると思う。

- ・ (北村委員)

お金ということでいえば、事業費が良いと思う。条例指定を受けたということで寄附を集めていくと考えれば寄附の実績はなくてもいいと思う。寄附者を数値化する、数値基準として出す必要はないと思う。

- ・ (高田委員)

事業費の場合、ボランティアの数を金額換算することもできる。

(4) 運営要件(認定・仮認定制度)

<主な意見・質問>

- ・ (高田委員)

ごく一般的なことなのですべて入れても良い。

- ・ (佐々木委員)

基本的なところは満たさないと困るので、すべて入れて問題ない。